

特定外来生物分類群等専門家グループ会合関連資料

- ・ 外来生物の特徴と第二次選定に際しての留意点（哺乳類・鳥類）…………… 1
- ・ 今後の検討の進め方について（哺乳類・鳥類）…………… 2
- ・ クリハラリスに関する情報…………… 3
- ・ ジャワマンゲースに関する情報…………… 5

外来生物の特徴と第二次選定に際しての留意点（哺乳類・鳥類）

（1）導入形態・利用形態

- 外来の哺乳類・鳥類は、天敵導入、実験動物、展示動物、愛玩などの目的で利用され、意図的に我が国に持ち込まれているものがほとんどである。
- 教育や愛玩の目的では公共施設、個人、民間施設等で多数の個体が飼育されているが、その実態が十分に把握されていないものがある。

（2）生物学的特性と被害に関する知見

- 多くの哺乳類は生態系における栄養段階の上位に位置することから、外来の哺乳類の定着による生態系への影響は一般的に大きく、直接的な捕食や競合、農林業への被害等の事例が報告されている。
- 我が国の固有種や固有亜種に対応する大陸系の近縁種が存在し、極めて交雑を起こしやすいと考えられる種が複数存在するが、被害の評価が困難な場合がある。
- 外来の鳥類については、定着に係る報告はあるものの生態系や農林水産業に与える被害に係る調査研究事例が全般的に少ない状況にある。

（3）関係する他の法令

- 鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律、感染症法、動物愛護管理法等の他法令により、輸入や飼養の制限がなされているものがある。

（4）規制により期待される効果

- 既に我が国に定着しているものについては、早期に計画的な防除を実施することにより、生態系等に対する被害を効果的に防止することが期待される。
- 意図的に我が国に持ち込まれているものがほとんどであるため、法律に基づき輸入及び飼養等に係る規制を行うことは、生態系等への影響を防止する上で特に効果的である。

今後の検討の進め方について（哺乳類・鳥類）

「第二次以降の特定外来生物等の選定の作業手順」に基づき、検討対象の生物について、例えば次の特性やその組み合わせに着目して知見と情報の整理をすすめ、生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあると判断されるものについて選定するものとする。その際、文献による知見が不足していると思われるものについては、下記の特性に関する文献以外の情報の蓄積に努め、これらの情報をもとに、専門家会合における判断が可能かどうか検討する。

なお、海外で被害をもたらしているものについては、海外での被害の内容を確認し、次の特性等に着目して我が国に定着して被害を及ぼすおそれについて検討する。

- 在来生物に対する捕食能力が高いこと（在来生物側の捕食回避能力が低いこと）
- 在来生物と比べ繁殖能力が高いこと
- 分布拡大能力に優れていること
- 大型の草食動物で植生構造を著しく変化させるおそれがあること
- 我が国にその生物を捕食する天敵がないこと
- 在来生物と近縁で交雑を起こす可能性が高いこと
- 野外へ逸出しやすい性質（逸脱する能力）や遺棄されやすい性質（気性の荒さ等の危険性を持つこと、大型化すること）を有していること、
- 大量に流通・飼養されていること
- 野外での利用を前提とした放逐がなされる可能性があること
- 在来の野生動物に感染症をもたらすおそれがあること

クリハラリス (*Callosiurus erythraeus*) (亜種タイワンリス (*C. erythraeus. taiwanensis*) を含む) に関する情報

○原産地 クリハラリスは、アジア全域（中国からマレー半島）にかけて広く分布
タイワンリスは台湾固有亜種

○定着実績：タイワンリスが神奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、和歌山県、長崎県などで定着

○評価の理由

- ・ 飼育個体数が比較的に多い上、逸脱、野生化の事例も多く、さらに分布を拡大すればニホンリスとの競合や樹木の皮剥ぎ等により、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。

○被害の状況（代表的な事例）

（１）生態系に係る被害

- これまで分布域が市街地、島嶼部に限られていたが、最近になって著しく分布域を広げており、連続した森林生態系に侵入すれば、在来のリス類との競合などが懸念される（文献③）。
- 環境選択の厳しいニホンリスが地域的に消失していく中で、環境省版 RDB で「絶滅のおそれのある地域個体群」とされている中部地方以西のニホンリスが競合した場合、ニホンリスの地域的な絶滅要因になる可能性がある。

（２）農林水産業に係る被害

- 本種によりスギ・ヒノキ植林への被害面積が福江市では拡大している（文献⑤）など、農作物や林木（樹皮剥ぎ）などの農林業被害が報告されている。

○影響をもたらしている要因

（１）生物学的要因

- 通常は、照葉樹林に生息し、湿潤温暖な気候が繁殖に必要とされるが、日本国内では行動圏を重複させ高密度で生息が可能である。
- 今のところタイワンリスの分布域はニホンリスの分布域に達していないが、もし分布域が重なれば、体格の勝るタイワンリスは、ニホンリスとの競合を通して生息を圧迫する可能性が高い。
- 都市、造林地、山林など様々な環境での生息に適応している。
- 餌の選択性が広く、鳥類なども捕食する。
- 繁殖力が強く、年に３度の繁殖もありえる。

（２）社会的要因

- ペットとしてかなり流通しており、放棄、または逸出した個体が定着した可能性が指摘さ

れている。

○特徴ならびに近縁種、類似種などについて

- 頭胴長 20～22cm、尾長 17～20cm、体重が 360g 程度で背面は黒と黄土色の霜降り模様。

○その他の関連情報

- 現在も、神奈川県などで分布拡大中であり、東京都では、有害駆除対象として駆除を実施した。福江市では、大規模な有害駆除により平成 10 年より計 4,987 頭を駆除した。
- 電線を齧る、天井裏などへの侵入、戸袋などに巣を作る、庭木を齧るなど、生活環境被害が深刻である。
- ヨーロッパでもタイワンリスと近縁種のフィレソンリスが公園に導入され樹皮剥ぎなどの問題を起こしている。

○主な参考文献

- ① 小野衛 (2001) 鎌倉のタイワンリス, かながわの自然 63 : 12-13.
- ② 自然環境研究センター(1998)野生哺乳類実態調査報告書, 161pp.
- ③ 田村典子(2004) 神奈川県における外来種タイワンリスの個体数増加と分布拡大, 保全生態学研究, 9 : 37-44.
- ④ 田村典子 (2001) ニホンリスの保全ガイドラインづくりに向けて II 海外のリス類の保全, 哺乳類科学 41 : 137-148.
- ⑤ ワイルドライフ・ワークショップ(2003)平成 14 年度タイワンリス生息状況等調査(福江)報告書, 14pp.

ジャワマングース (*Herpestes javanicus*) に関する情報

○原産地 西アジア、インド原産

○定着実績：沖縄島、奄美大島に定着

○評価の理由

- ・ 奄美大島、沖縄島で希少な在来生物を捕食することにより、生態系への被害が深刻化しており、防除などの対策がすでに実施されている。
- ・ 国外でも、食肉獣のいない島嶼に持ち込まれた際、在来の生物群集に対するインパクトが大きいことが指摘されており、本種が在来生物の絶滅要因になったとされる事例が報告されている。
- ・ 鶏卵、鶏雛に対する養鶏被害や、農作物への被害が報告されている。

○被害の実態（代表的な事例）

（１）生態系に係わる被害

- 多種多様な動物（絶滅危惧種も含む）を捕食している。アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、アカヒゲ、ヤンバルクイナ、キノボリトカゲ、ワタセジネズミ、オキナワアオガエル、イボイモリなど哺乳類から昆虫類まで様々な絶滅危惧指定種を捕食している報告がある（文献①②③④⑤）。

●

（２）農林水産業に係わる被害

- 鶏卵、鶏雛に対する養鶏被害や、農作物への被害が報告されている（文献②）。

○影響をもたらしている要因

（１）生物学的要因

- 食性は昆虫類主体であるが、昆虫以外の節足動物、両生類、鳥類、哺乳類も捕食する（昆虫 71%、爬虫類 18%、軟体動物 12%など）。
- 昆虫類を多食する一方で、単位重量の大きい哺乳類、鳥類にも強く依存している
- 食物に対する選択性が小さく、あらゆる小動物を捕食しうる。
- 沖縄島、奄美大島のマングースは、両島の生態系において陸棲動物のほとんどを捕食できる高次捕食者である。
- 生存能力が非常に強いとされる。
- 繁殖期が長く、増殖力が大きい（一年のうち約 6 ヶ月間が繁殖期に相当）。

（２）社会的要因

- ハブの駆除を目的として意図的に導入された。

○特徴ならびに近縁種、類似種などについて

- 頭胴長 30cm。尾長 25、体重が 500g の小型肉食獣でマンガース亜科に、本種以外には 26 種のマンガースが熱帯アジア、アフリカに広く分布している。

○その他の関連情報

- ニューージーランド及びアメリカでは輸入禁止種にリストされている。
- 西インド諸島、ハワイ、フィジーなどに導入され、生態系に影響を及ぼしている（特に西インド諸島では哺乳類と爬虫類、フィジーとハワイでは鳥類の絶滅・減少要因になったとされる。
- 日本哺乳類学会は、環境省等に対して「移入哺乳類への緊急対策に関する要望書」を提出し、速やかな駆除を緊急に要する種に指定している。

○主な参考文献

- ① 石井信夫 (2003) 奄美大島のマンガース駆除事業-特に生息数の推定と駆除の効果について, 保全生態学研究, 8, 73-82.
- ② 環境庁・鹿児島県・自然環境研究センター (2000) 平成 11 年度島しょ地域の移入種駆除・制御モデル事業 (奄美大島: マングース) 調査報告書, 115pp.
- ③ Long, J.L. (2003) Introduced Mammals of the world. 589pp. CABI Publishing.
- ④ 小倉剛・佐々木健志・当山昌直・嵩山健二・仲地学・石橋治・川島由次・織田鉄一 (2002) 沖縄島北部に生息するジャワマンガース (*Herpestes javanicus*) の食性と在来種への影響, 哺乳類科学, 42: 53-62.
- ⑤ 沖縄県 (2003) マングース対策事業 (沖縄マンガース生息調査) 報告書, 35pp.
- ⑥ 日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック, 地人書館, 390pp.
- ⑦ Simberloff et al. (2003) Character displacement and release in the small indian mongoose, *Herpestes javanicus*, Ecology, 81:2086-2099.
- ⑧ 自然環境研究センター (2002) 移入種 (マンガース) 駆除調査報告書, 27pp.